

過去と現代の MRIAGE

しまなみの複合施設



CONCEPT

「Mariage (マリアージュ)」とは、本来別々だった存在があたかも一体となるように調和し、新たな価値を生み出すことを意味する。本計画では、昔からあるものの立地条件などにより人が訪れにくい観光資源に対し、建物を“マリアージュ”させることで、観光資源としての持続性を高めることを目指した。

具体的には、しまなみ海道と直接つながっていないため来訪者が少ない岩城島の積善山を対象地とし、そこにある積善山展望台へ四則演算を操作原理とした増築計画を提案する。

地域の独自性やブランド性を際立たせるために、必要な要素を「足す」、不要な要素を「引き」、地域の魅力を「掛け」合わせ、機能を最適に「割り」振ることで、複合施設を設計し、観光資源としての新たな価値を創出する。

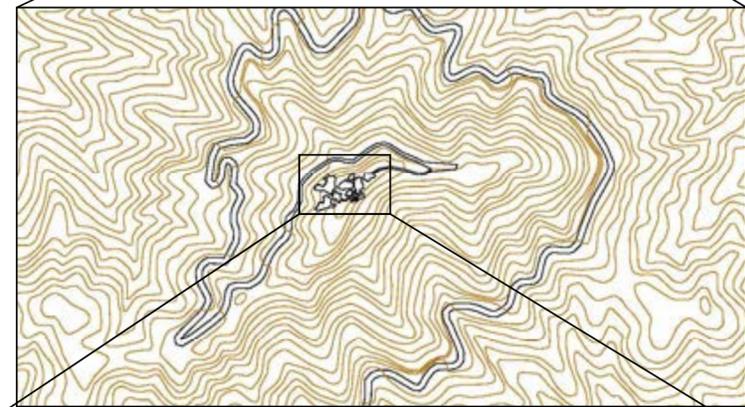
また、積善山の斜面や桜といった既存の自然環境を最大限に活かすことで、柔軟性と持続性を両立し、来訪者がしまなみ海道の島々の自然や文化を深く体験できる空間を形成することで、これまで人が来にくかった場所を魅力ある観光拠点へと再生させ、持続させることを狙いとしている。

DIAGRAM

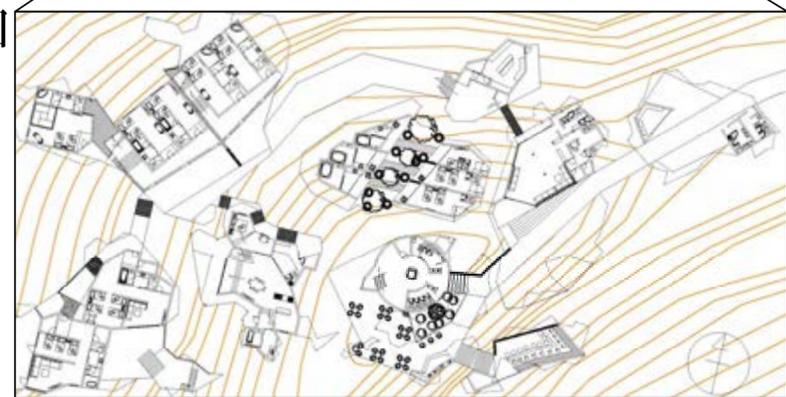
周辺地図



地形図



配置図



足す操作

増築自体が新たな観光価値を「足す」要素となり、階段を多用して斜面に沿わせることで、元の自然環境を壊さずに機能を追加する。



引く操作

スリット使用した設計や斜面下向きに開放する設計を行い、視線や風景を“切り取る”ことで、周囲の景観をより印象的に演出する。



掛ける操作

しまなみ海道の島々の形状を反復して取り入れることで、地域独自のアイデンティティを際立たせ、建築全体のデザインに統一感をもたらす。



割る操作

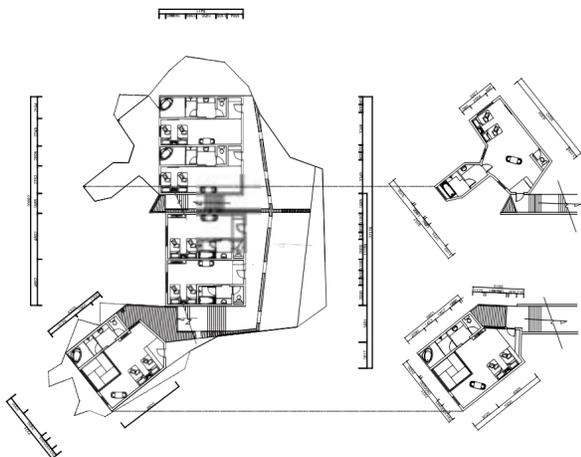
尾根の地形を活かし、ホテルの機能とカフェ、展望台、足湯の機能を“分割”し、各島型の建物ごとに島の歴史や文化を振り分けることで、しまなみ海道を身をもって感じられるようにし、より深い観光体験を提供する。



展望台など

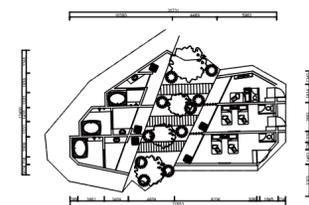
ホテル～大三島～

しまなみ海道の中で最も大きいこの大三島では、3層に分けて計7つの客室を設計した。大三島の特徴の1つとして、古くに水が貴重とされていたことがあり、現在でもそのようなものが受け継がれている。その特徴からこのホテルでは、共用部において水路や水盤を設けることによって、他のホテルに比べて水を感じることが可能となっている。



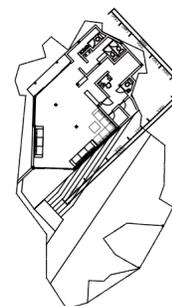
ホテル～生口島～

ロビーから出てすぐのこの客室では、全体を3つに分割するとともに、1室の中でも外の空間を境に2つに分割する他に見ないホテルとなっている。その外の空間レモンの木を配置することでは、生口島の特徴の1つでもあるレモン谷を表現している。外の空間を交えて分割された縦に繋がる客室は、相乗効果をもたらす。また、壁を減らした外部の空間の中に、レモンの木などの植物や木のスリッドを加えることによって、見えない中に客室ごとの分割や視線の削減のような効果をもたらすこととなっている。



ロビー～因島～

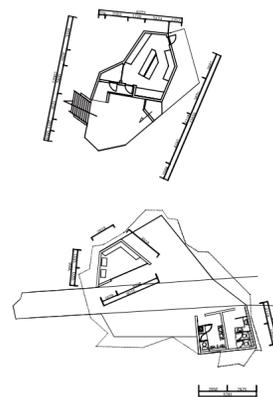
この観光施設を訪れて一番最初に通る建物であり、この施設の門のような役割。ホテルの利用客はここでチェックインを済ませて入室する。ホテルを利用する客も、そうでない客もゆったりと過ごせる空間となっている。



玄関口・通路・厨房～向島、佐木島～

厨房と客室へと下る動線を担う佐木島は、地面につかない造りを採用した。この設計により、建物自体が大きな踊り場のような形状となり、厨房と階段が一体となった機能的な空間を実現させた。

向島にはトイレと休憩所を設け、来訪者が気軽に利用できるよう配慮した。また、鈍角の壁と施設へ向かって開く屋根のデザインにより、自然と人々の足が施設内部へと導かれる設計とした。



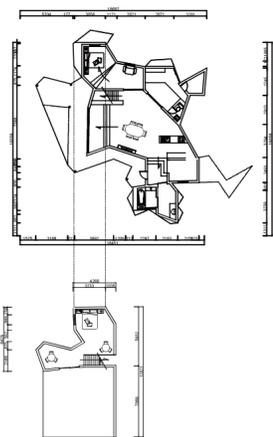
ホテル～大島～

ロビー（因島）から最も離れた場所に位置する大島は南西方向に大きく開かれていることが特徴の1つである。その特徴を大きく生かすために4つのホテルの中で最も大きいベランダを持っている。また、このホテルでは、二次元的な分割とともに、2つの客室の間で三次元的に分割することによって、それぞれの客室を利用する人の間の距離感を離すことを可能にしている。



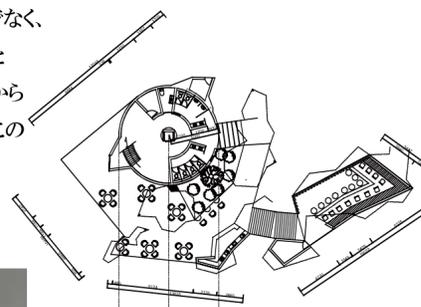
ホテル～伯方島～

4つのホテルの中で唯一、一室のみの設計となっている。他のホテルに比べて、多くの島に囲まれているこの伯方島では、高低差を利用して自身の建物よりも高い位置に建物がある面には壁で完全に仕切り、低い位置に建物がある面には開かれる設計となっている。また、下の階において、壁を減らしてピロティを設けるとともに、南西方向において階を降りるとともに床の面積を増やすことによって、より開放的な感覚をもたらしている。



展望台・カフェ～岩城島、津波島、赤穂根島、佐島、生名島～

この施設の中で最も眺望のよい建物。この場所からの体験は、ただ美しい景色を見るだけでなく、フラクタルによる心の安らぎを感じさせるものとなっている。また、この施設の中で唯一元から存在する建物を改築した建物であるため、この設計の中心となる建物であるといえる。



足湯～弓削島～

上記のような景色やフラクタルから得られる安らぎに、足湯による安らぎを追加した。普段、現代社会の荒波に揉まれている来訪者たちに向けて、より一層の安らぎを与えることを目的とした、この施設の目玉施設のうちの一つ。

